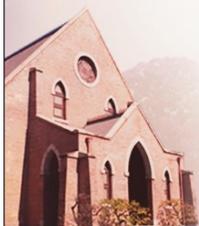


建学の精神とキリスト教 - 501 【第14回】

# キリスト教主義の未来



同志社大学 神学部教授  
良心学研究センター長  
小原 克博

1

# 1

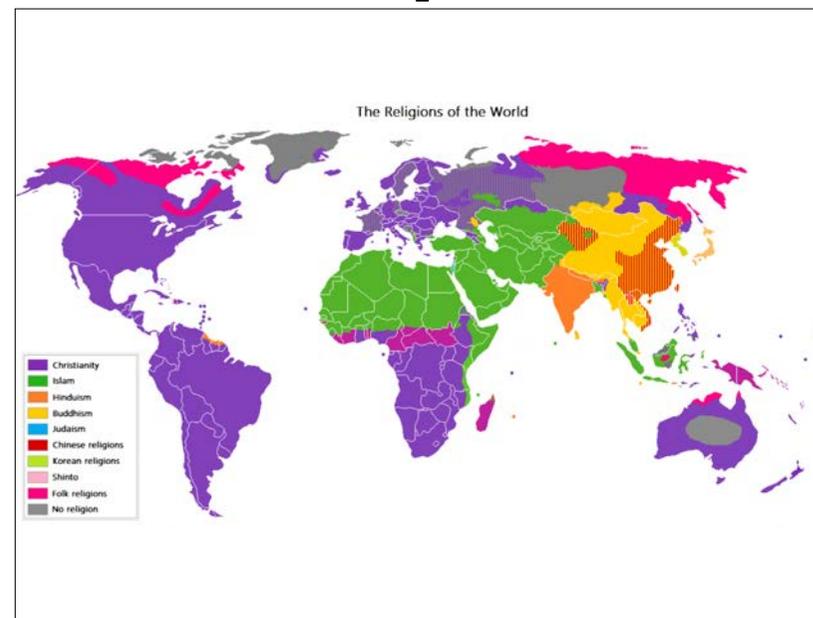
## キリスト教の現在と未来 — グローバル化の中で —

3

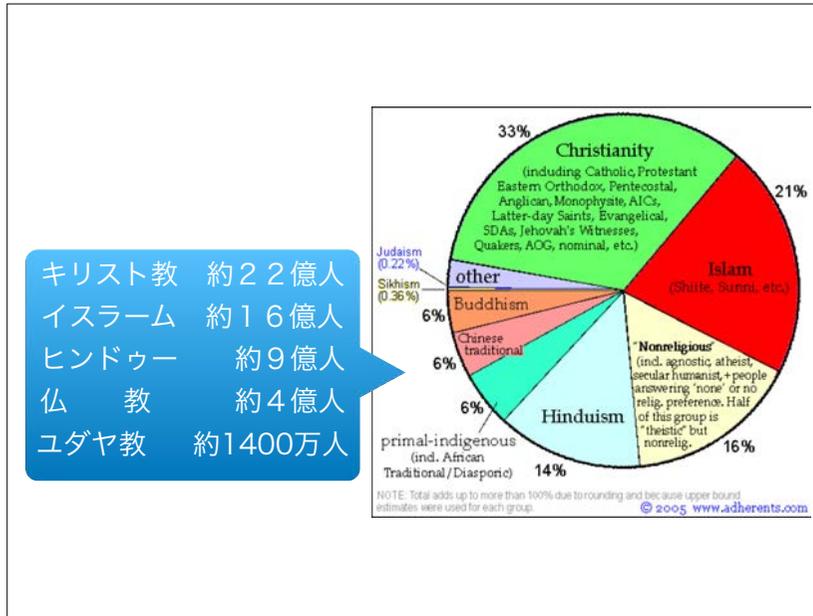
## Overview

1. キリスト教の現在と未来  
— グローバル化の中で
2. 新島襄とキリスト教主義
3. 人類と宗教  
— キリスト教を人類史に接続する
4. キリスト教主義が問う未来のカタチ
5. 今回の課題

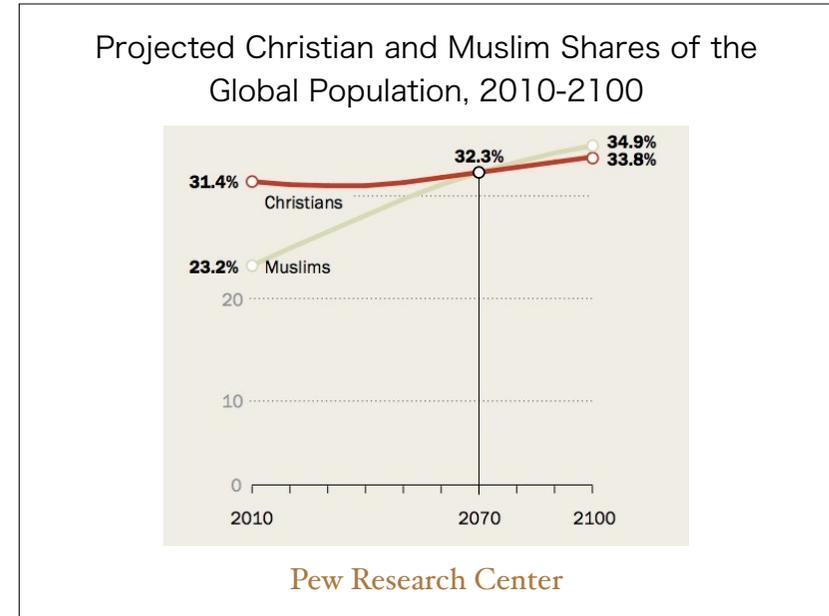
2



4



5



6

## 宗教のダイナミズム

- 宗教の多元化（簡単に色分けできない）
- 世俗化と宗教復興運動
- 中心点（成長点）の変化
- 異なる宗教あるいは宗派の緊張関係

7

# 2

## 新島襄とキリスト教主義

8

## 【復習】良心と真理

生のごときは日暮れて途遠く、なお克く  
驚馬千里を駆ける能わずといえども、た  
だただ我が良心を真理に照準して使用  
し、天より賦与するところの力を竭くし  
て一生を終わらんと欲するのみ。

（「徳富猪一郎宛」手紙、1882年、『新  
島襄の手紙』167頁）☞『新島襄365』

【8月7日】

9

## 【復習】儒教とキリスト教

「而してかくのごとき教育は、決して一方に偏した  
る智育にて達し得べき者にあらず、また既に人心を  
支配するの能力を失うたる儒教主義の能くすべき所  
にあらず、ただ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦  
くする基督教主義の道德に存することを信じ、基督  
教主義をもって徳育の基本と為せり。吾人が世の教  
育家とその趨を異にしたるもここに在り。」（「同  
志社大学設立の旨意」1888年、『新島襄 教育宗教  
論集』21-22頁）☞『新島襄365』【1月16日】

11

## 【復習】会衆主義

教派や教義に相違があることは望ましいことかも  
しれない。しかし教派・教義は魂の救いのための  
主たる手段ではない。我らの救い主がなされたよ  
うに、罪人たちに真理を与えること、これこそが  
先ずなされなくてはならない。真の敬虔さをもっ  
てそれをなす人は誰でも、教派、教義以上の存在  
だ。教派や教義に心奪われて、本質を見落とさな  
いようにしよう。（随想「異国で想う」1885  
年、『新島襄自伝』382頁）

☞『新島襄365』【11月20日】

10

## 家族的秩序からの解放

わたしが来たのは地上に平和をもたらすため  
だ、と思っはならない。平和ではなく、剣を  
もたらすために来たのだ。わたしは敵対させる  
ために来たからである。人をその父に、娘を母  
に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家族  
の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する  
者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも  
息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくな  
い。（マタイによる福音書10:34-37）

12

## 【復習】 基督教主義とは？

これ基督教主義をもって、我が同志社大学**徳育の基本**と為す所以、而してこの教育を施さんが為に、同志社大学を設立せんと欲する所以なり。

吾人の目的かくのごとし。もしそれこの事を目して基督教拡張の手段なり、伝道師養成の目的と云う者は、未だ吾人が心事を知らざる人なり。吾人が志す所の者、**なおその上に在るなり**。吾人は基督教を拡張せんが為に大学校を設立するにあらず、ただ基督教主義は、実に我が青年の**精神と品行とを陶冶する活力**あることを信じ、この主義をもって教育に適用し、さらにこの主義をもって品行を陶冶する人物を養成せんと欲するのみ。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

👉 『新島襄365』【1月24日】

13

## 言語・虚構による世界認識

- ・言語の獲得、シンボリズム（→ 科学）の使用
- ・虚構を作り出すヒトの能力：人間は不可視のものを想像する（動物は五感で認知できるものがすべて）。→ **「つなぐ力」**（religio, religare）
- ・ライオンマン：ドイツで発見された最古の彫刻（約32,000年前、右図）。



15

# 3

## 人類と宗教 — キリスト教主義を 人類史に接続する —

14

「伝説や神話、神々、宗教は、認知革命に伴って初めて現れた。それまでも、「気をつける！ ライオンだ！」と言える動物や人類種は多くいた。だがホモ・サピエンスは**認知革命**のおかげで、「ライオンはわが部族の守護霊だ」と言う能力を獲得した。**虚構、すなわち架空の事物について語るこの能力**こそが、サピエンスの言語の特徴として異彩を放っている。」

（ユヴァル・ノア・ハラリ『サピエンス全史——文明の構造と人類の幸福』（上）河出書房新社、2016年、39頁）



16

「宗教を抜きにして、人類が小さな群れにすぎなかった社会を超えていかに発展していったのかを理解することは不可能だ。(中略)それ〔宗教儀式〕によって、人間社会は環境に対してなんらかの作用を及ぼそうという望みを抱く。」

(フランシス・フクヤマ『政治の起源』上、講談社、2013年、72頁)

17

## 「宗教」とキリスト教

- ・ イエスは「宗教」(ユダヤ教をベースとする宗教的文化的因習)からの自由を説いた。
- ・ 宗教 (religio) と迷信 (superstitio)
  - ・ ローマ的秩序に適合するものが「宗教」とされた。キリスト教はその初期において「迷信」とされた。
- ・ 4世紀以降、キリスト教がローマ帝国の「宗教」となる。
  - ・ 西洋ではキリスト教が「宗教」の範型。キリスト教以外の宗教は「迷信」。
- ・ 19世紀以降、科学的合理主義の視点からは宗教は「迷信」とされる。

19

- ・ 虚構 → **イノベーション**
- ・ ホモ・サピエンスにとっての「宗教」
  - ・ **個と集団**を結びつける力
  - ・ 共同体のエシックス
  - ・ 生存の基盤



18

## キリスト教主義と「宗教」

- ・ キリスト教主義は「宗教」としてのキリスト教とは異なる。→「**なおその上に在るなり**」(同志社大学設立の旨意)
- ・ キリスト教主義はキリスト教(イエスの教え)を「薄味」にしたものであってはならない。
- ・ 「宗教」以前のキリスト教(イエスの教え)に立ち返ることの模索。
  - 「**非宗教的**」キリスト教(D.ボンヘッファー)

20

## キリスト教主義と日本社会

- ・日本社会における集団と個：基調としての  
集団主義 ↔ キリスト教主義
- ・戦後の個人主義：戦前への反省。しかし、  
個の強度が強いとは言えない。
- ・個人と共同体を適切に関係づけることに失  
敗してきたのではないか
  - ・何のために学ぶのか？

21

## 【復習】 真理似寒梅敢侵風雪開

- ・真理は寒梅のごとし。あえて風雪を  
侵して開く。（『新島襄全集』5、  
563頁）
- ・キリスト教主義：「青年の精神と品  
行とを陶冶する活力」

23

# 4

## キリスト教主義が問う 未来のカタチ

22

## 宗教多元的な時代に対して

- ・キリスト教絶対主義（初期宣教師た  
ちの基本理解）を越えて
- ・他の宗教との対話

対話促進のための触媒（「地の塩」）

24

## 社会の世俗化（宗教化）に対して

- ・ 良心（conscience）との接続によるキリスト教主義の深化
- ・ 対立する価値を調停する力としての良心
- ・ 科学とキリスト教の関係づけ

世俗的価値と宗教的価値の架橋

25

## 大量消費時代に対して

だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。（マタイによる福音書6:25-30）

欲望の制御・変換

27

## SNS時代に対して

**人を裁くな。**あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。（マタイによる福音書7:1-5）

「裁く」のではなく「共に知る」

26

## シームレスな時代に対して

- ・ 「安息日を心に留め、これを聖別せよ」（出エジプト記 20:8）
- ・ 金曜日の日没から土曜日の日没までの一日、神が創造の業を終え「安息」したことを覚える。労働の禁止。
- ・ 日常生活のリセット、個人的良心の成熟

「安息」による充足・解放

28

## 格差拡大の時代に対して

- さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「**行って、あなたも同じようにしなさい。**」（ルカによる福音書10:36-37）
- はっきり言うておく。わたしの兄弟である**この最も小さい者**の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。（マタイによる福音書25:40）

「この最も小さい者」への強い眼差し

29

## 科学技術時代に対して

- 大学は智識の養成場なり、**宇宙原理の講究所**なり、
- **深山大沢龍蛇を生ず**と申して之を深山大沢となし、器量の大、志操の高、目的の大なる人物を養成致し度きものなり。

ネクスト「深山大沢」に向かう活力

30

## 5 今回の課題（600～800字）

- 今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。
- 『新島襄365』【3月1日】～【3月31日】を読み、もっとも関心をひかれた日付を《二つ》あげ、それぞれ、その理由を述べてください。

31